

## 第4回検討委員会における意見と対応

---

## 第4回検討委員会における意見と対応

- (1) L2地震動
- (2) L2津波
- (3) 液状化、土砂災害
- (4) L1地震動、L2半割れ地震

# 第4回検討委員会における意見と対応

## (1) L2地震動

No	項目	意見	対応
1	予測条件	条件について、国の方法との対比表をまとめておくこと。	前回調査、国の方法との条件を整理した。より詳細なものを報告書にて示す。
2	継続時間	震源の各領域がどのように寄与しているかを明らかにしておくこと。	強震動生成域ごとの波形を整理し、報告書でとりまとめる。
3	〃	破壊時間によって継続時間が変わる可能性がある。	継続時間分布図を示す際には、設定条件を踏まえた場合の継続時間であることを明記するように注意する。
4	〃	西側の継続時間が相対的に短いため、安全であるといった印象を与えないように注意が必要。	過去の事例などを比較として示し、地域によってリスクを過小にとらえられないように配慮する。
5	震度分布	県民からは4ケースの最大震度分布が注目される。これがひとつのシナリオでないことを強調してほしい。	マップと合わせて解説、注釈を入れる。
6	〃	揺れが大きくなる傾向のある地域に対しては注意喚起も含めてリスクを示すようにしてほしい。	L1地震動の結果も含めて地域的な特性を整理する。
7	地盤モデル	ジオパークの見せ方とも関連させてまとめると興味を持ってもらうことができる。	地盤モデルの作成方法と合わせて取りまとめを工夫する。

# 第4回検討委員会における意見と対応

## (2) L2津波

No	項目	意見	対応
8	予測条件	土木部が実施した過年度に津波に関する検討などと条件の比較整理が必要。	各検討による予測条件、考え方を整理して示すようにする。
9	〃	陸閘とか水門の条件についても重要なものであるの で、考え方を述べておく。	同上
10	予測結果	前回調査からの浸水面積の変化については、国との 違いを含めて要因を説明できるようにすること。	変化が大きいところや、重要な場所を中心に変化要 因を確認する。
11	見せ方	最大包絡の浸水を示してるが、被害想定や対策上は 適さない場合もある。	最大のリスクとして示すことをマップの注釈に示す。
12	〃	アニメーションを見せることで住民の反応が大きく 変わるので、ぜひ示してほしい。	アニメーションの作成準備を進めており、将来的に 県ホームページ等で公表する。
13	〃	医療機関や避難所までのルートがどのようになる可 能性があるのかを示していただきたい。また、水が 引くまでの時間や警報解除までの時間が分かると活 動がしやすくなる。	重要施設は浸水マップで合わせて示す。また、防災 マップ上で展開していただくことで個別の避難所の 状況把握に役立ててもらうことを想定している。
14	地盤沈降	前回の南海地震のときの地盤沈降がどのように回復 してきたかといったデータがあれば整理すると良い。	調査し、整理を図る。

# 第4回検討委員会における意見と対応

## (3) 液状化、土砂災害

No	項目	意見	対応
15	液状化	液状化によって生じる被害のイメージが付きづらいので、マップ作成の際には写真やイラストなどを活用して触れていただくと良い。	マップを公開する際に作成時合わせて示せるように努める。
16	〃	個別の地域や住宅地でどのような被害が生じるかが県民は気になるところである。	いくつかの地域を拡大してマップを作成する。個別の住宅地などについては市町村が対応できるようにデータ提供を行う。
17	土砂災害	関心が高いのは道路の利用度判定と避難場所の健全性である。道路啓開にも関係する話なので、予測のときにデータとして提示すると良い。	定量的には帰宅困難者、孤立集落数の算定を行う。また、避難所となるような重要施設への影響について評価が可能か検討する。
18	〃	道路状況は様々なライフライン、災害廃棄物系のオペレーションに関連するため重要である。予測結果の活用方法について明確にしておく。	定量的な評価が難しいため、道路状況を踏まえたシナリオ、様相への反映を図る。
19	〃	避難路の状況について、個別に予測することは難しいかもしれないが、注意喚起にも展開するようなことを考えてほしい。	被害予測結果を踏まえて、シナリオや様相で避難路の状況についても触れるようにする。
20	〃	どういう地盤に関わる災害があって、××箇所がどのような災害危険度を示してるかというのをポンチ絵付きで説明しないと分からない。	対象とする危険箇所等の説明について、図を加えて示した。【資料2 p17】

# 第4回検討委員会における意見と対応

## (4) L1地震動、L2半割れ地震

No	項目	意見	対応
21	半割れ	L1、L2それぞれで半割れを想定する際のすべり量の取り扱い、妥当性について整理しておく。	内閣府や他県の考え方を整理したうえで、震源断層モデルのすべり量を設定した。【資料1 P23,35】
22	L1半割れ	L1の時間差発生が一番あり得るケースなので、一番あり得るケースのところについて、どういう考えに基づいているかは、説明性が求められる。	L1や半割れ地震の取り扱いについて整理した。【資料1 P3など】